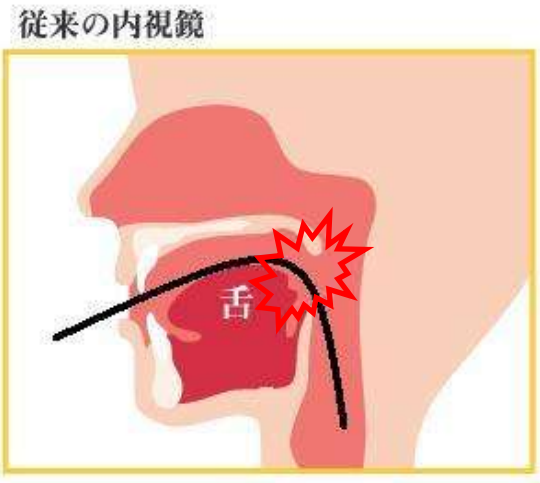
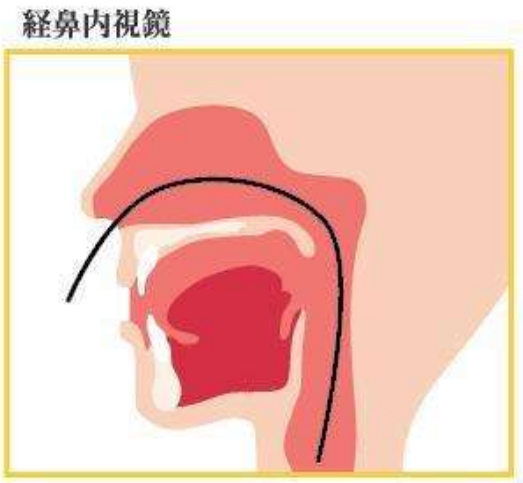
# 超細径内視鏡を用いた経鼻内視鏡

上部消化管内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）に伴う患者様の負担軽減を考慮し、従来の経口内視鏡に加えて経鼻内視鏡を導入しました。

鼻腔から直線的に喉を通過し食道・胃へ挿入されるため嘔吐反射が起きにくく楽に検査を受けていただくことができます。




のどを通る時に舌根と呼ばれる舌の付け根に内視鏡が触れるため、“吐き気（嘔吐感）”が生じる




鼻腔から直線的に喉を通過し食道・胃へ挿入されるため、嘔吐反射が起きにくい

## 特徴

★　鼻にスムーズに挿入できる約5mmの細さです。検査中の苦痛も少なく強い麻酔の必要がありません。

★　内視鏡が舌のつけ根を通らず、のどに触れることもないので、経口内視鏡に較べて不快感や吐き気が少ない状態で検査を受けることが出来ます。（吐き気の強さなどは人によって異なります。）

★　検査中でも会話が可能です。質問をしたいとき、気分を告げたいときなど医師と自由に会話できるので安心です。

★　超小型CCDを搭載しているので、従来の内視鏡とほぼ同等の高画質で観察診断が行なえます。

# 検査の手順

検査前日

夕食は検査前日の午後9時までに済ませてください。
（水やお茶の摂取は可能）

検査当日

水やお茶の摂取は朝6時まで可能です。

1：胃の中をキレイにする為、消泡剤を飲みます。
2：鼻腔に局所血管収縮剤をスプレーします 。（止血効果）
3：鼻腔に麻酔薬を注入し、さらに柔らかなチューブを挿入します 。
（局所麻酔）
4：経鼻内視鏡検査スタート

# 注意事項

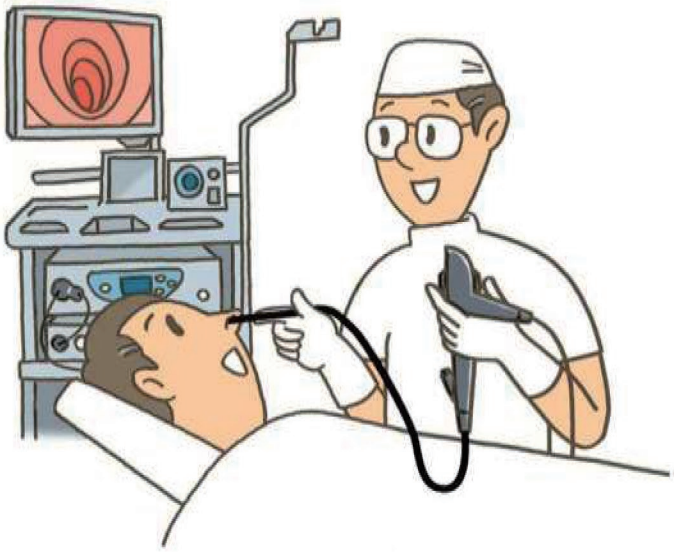
● 鼻の手術をされた方、鼻腔が狭い方など、まれに内視鏡の挿入が困難な場合があります。

● 検査後に鼻出血を認めることがあります。

前処置の方法は今後変更となる場合があります。

検査の目的によっては、担当医が経鼻でなく経口を選択することもあります。

詳細は消化器内科外来にてご相談下さい。



一般財団法人住友病院　消化器内科